

高度安全実験施設（BSL4施設） に関する最近の動き

平成29年2月15日

長崎大学

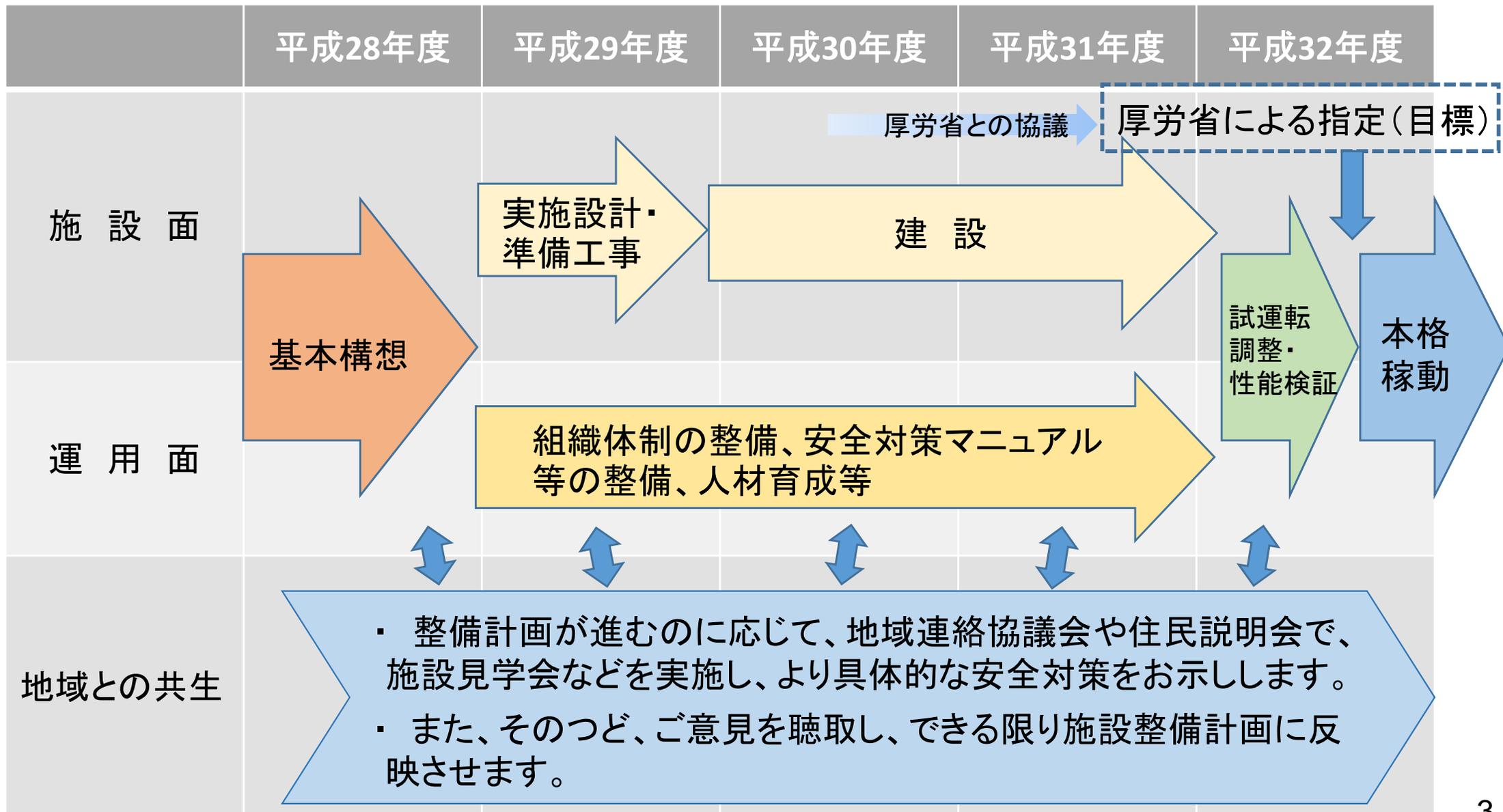
長崎の地元自治体の動き

- 11月21日に、長崎県・長崎市から長崎大学に対し、施設の整備推進にあたっては、事業実施主体として、地域住民の声に謙虚に耳を傾けながら、地域と共生するという真摯な姿勢で、引き続き、住民理解促進のための取組みを進めていくことを前提として、3点要請（以下の表参照）。
- 11月22日に、知事、市長、学長による三者協議の場で、長崎大学学長から要請に対し回答。
- 同日、これを踏まえ、知事、市長が、長崎大学の施設整備計画の事業化に協力することを合意。

項目	長崎県・長崎市の要請	長崎大学からの回答
世界最高水準の安全性の実現	施設の設置・運営にあたっては、安全性の確保に万全を期すこと。	<ul style="list-style-type: none"> 事業実施主体として、国の監督、指導、助言のもと、設計・建設段階から、国内外の先進的な事例を取り入れて、世界最高水準の安全確保に責任を持って取り組みます。 稼働後も、最新の情報に基づき、安全対策の充実を図ります。
地域との信頼関係の構築	施設の設置・運営にあたっては、地域との共生が図られるよう、住民の疑問や不安を解消するために十分な説明責任を果すこと。また、透明性を確保しながら積極的な広報に努めること。	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民の方々のご疑問やご不安を真摯に受け止め、徹底した情報開示と説明により、「地域との信頼関係の構築を通じた地域との共生」に取り組んでいきます。 特に、「地域連絡協議会」の枠組みについては、様々な情報の開示や提供と並び、地域の方々のご意見を施設設置計画に反映させる上で中核的な役割を果たすものとして、これまで同様、長崎県及び長崎市のご協力の下、その時々々の状況に応じた運営等の見直しをしながら、継続させていきます。
国と連携したチェック体制の構築	国の主導により構築する「長崎大学の取組みを第三者の立場からチェックする仕組み」との連携のもと、自らの取組みをチェックする体制を構築すること。	<ul style="list-style-type: none"> 施設の安全管理と合理的運営を監査するバイオセーフティオフィサーを学長の直下に独立して配置するなど、国が構築する第三者チェックの仕組みとも連携を図りながら、自らの取組みを厳しく監視します。

長崎大学の今後の取組み

- 今後、以下のスケジュールで、BSL-4施設整備計画を推進します。
- 計画に必要な予算については、文部科学省と相談中です。



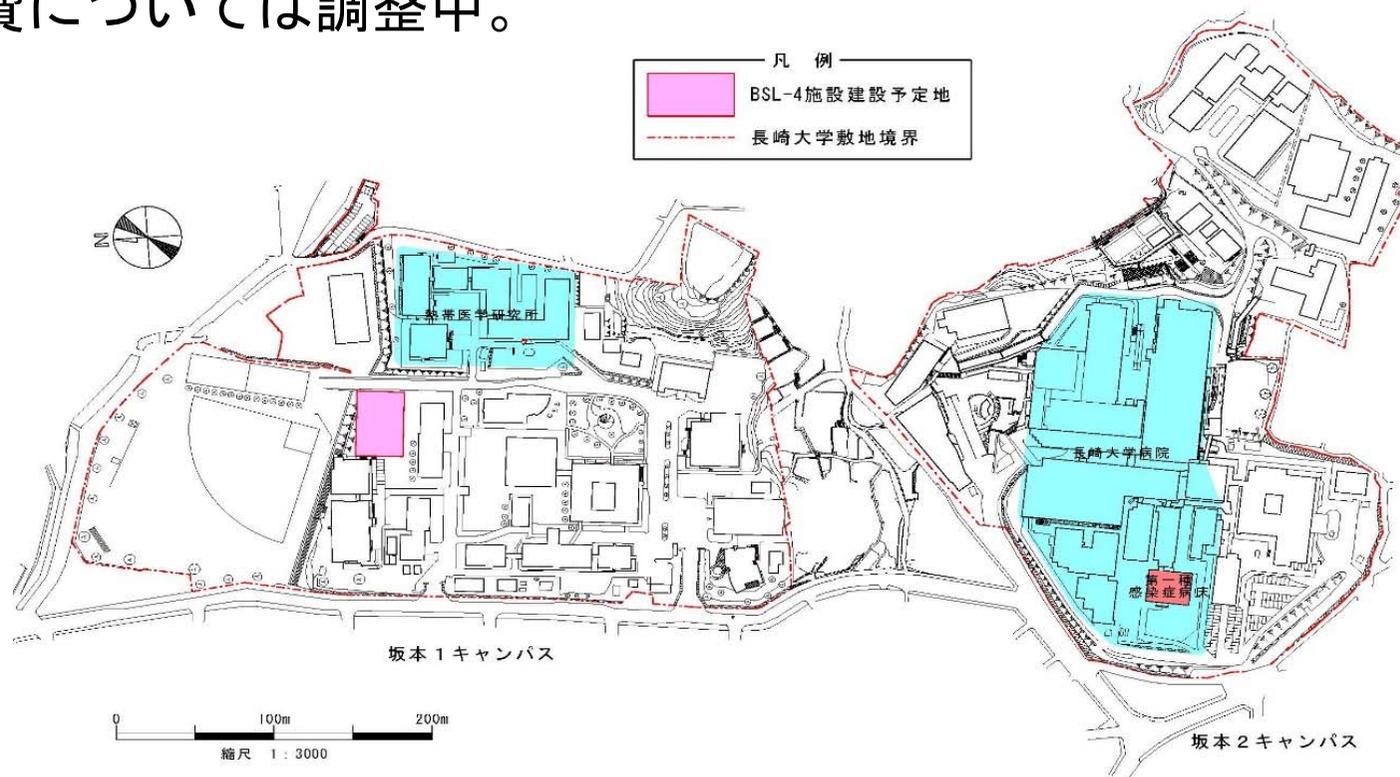
高度安全実験 (BSL-4) 施設の概要

(1) 施設名称
長崎大学高度安全実験 (BSL-4) 施設 (仮)

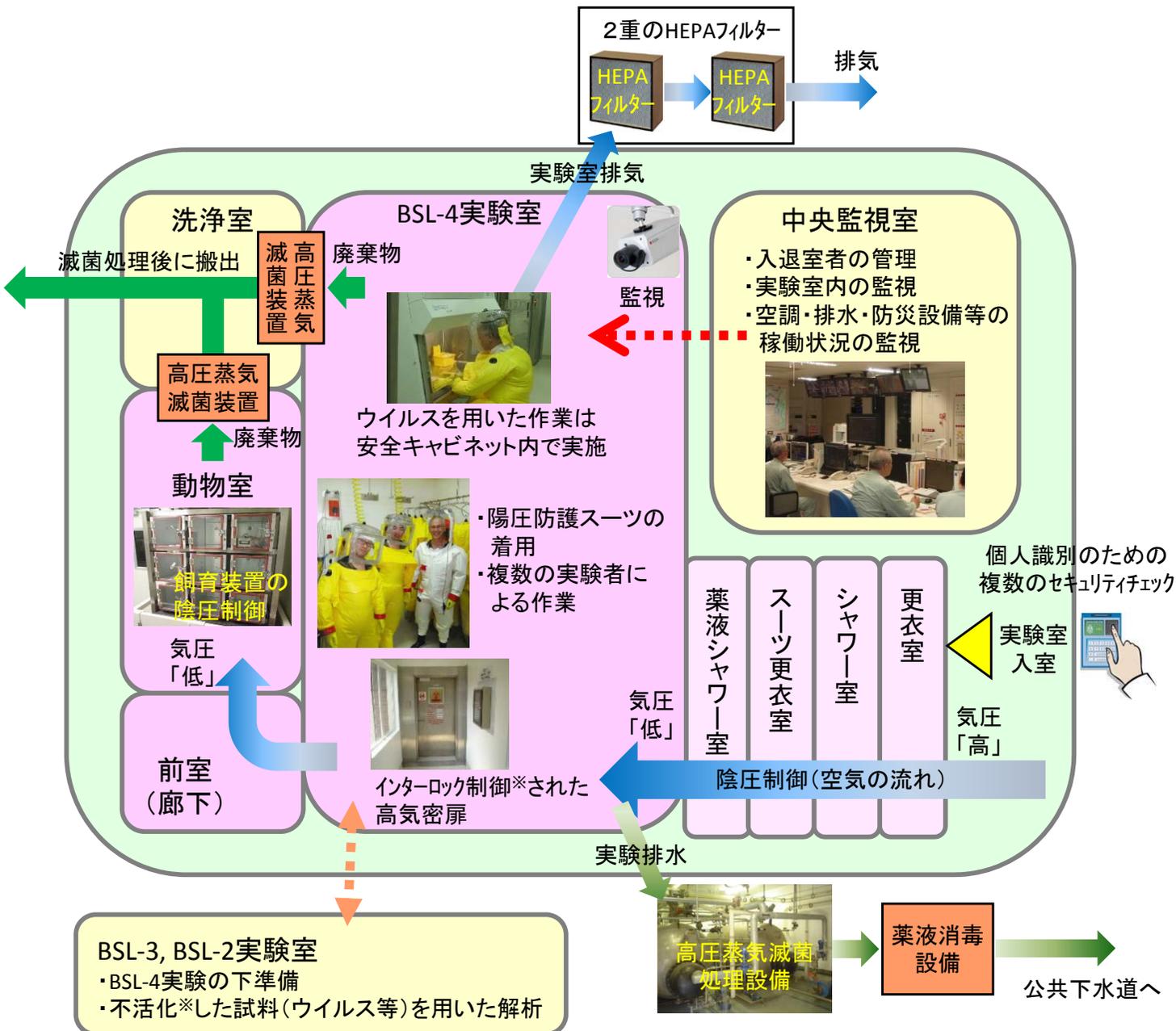
(2) 施設規模等
延べ面積：約4,000m²
構造：免震構造

主要室	備考
BSL-4 実験室	<ul style="list-style-type: none">・ 特定一種病原体を用いた感染実験を行う・ 動物室を有する実験室2系統
BSL-3, BSL-2 実験室	<ul style="list-style-type: none">・ BSL-4実験室で用いる細胞の培養等の実験の下準備・ BSL-4実験室で不活化したウイルスの試料の解析等を行う

※ 建設費については調整中。



BSL-4施設の安全対策



BSL-4施設の安全対策

- Box in Box構造
実験室の周囲に廊下等の緩衝ゾーンを設ける
- 陰圧管理
室圧差を作り、危険度の低い場所から高い場所への一定方向の気流を作る
- ろ過排気
室内空気は、最終的にHEPAフィルターを通した上で外部へ排出
- 滅菌排水
実験室内の排水は全て二度の滅菌処理
- 滅菌廃棄
実験室内の廃棄物は全て滅菌処理

BSL-4施設設置に係る主な基準

- 国内法令
感染症法、建築基準法、消防法 等
- 国内外の基準・マニュアル・ガイドライン等
国立感染症研究所病原体等安全管理規定、実験室バイオセーフティ指針(WHO) 等

※不活化
ウイルスの感染力や毒性を失わせること

※インターロック
部屋の片方の扉が閉まっていないともう片方の扉が開かない仕組み